

「農業農村開発の技術を考える」要点

農業農村開発の技術は、農業および農村を開発するための手段である。この手段を農業農村に導入する前に、先ずは地元の人々の本音を聞かなければならない。

本音を聞くには、単なるアンケート調査だけでは不十分だ。私たちは技術を導入される農村の現状を知り、地元の人々のニーズを把握し、過去、現在、未来この三つの角度から熟慮した上で、相応しい技術を導入すべきだ。

技術を導入する時は、導入される農村の環境を破壊したり、社会を混乱を招いたりしないように注意しないといけない。つまり、既に存在する技術に立脚した導入先に、新たな技術を導入すると、何が起こり得るかを常に意識しながら行動しなければならない。

この数年、先端技術の進歩は本当に目覚ましい。今では、インターネットを経由し、低コスト高性能のカメラを現地に設置し、遠隔地で農業農村の現場状況をわかるようになった。例えば、福島県飯舘村で「農畜産物生産を支援する ICT 営農管理システムの開発」という実験をしている。この実験のシステムにより、放牧牛の高解像度画像がインターネットにアップロードされ、クラウドサーバーに収集され、飼い主に遠距離で見られる。この先端技術により開発されたシステムはいろいろな便利をもたらしたのは言うまでもないが、飯舘村以外の農村に導入すべきかどうかはまた、その地元のニーズ次第である。

そして最後に、「本音を聞ける」と「導入すべき技術を知る」技術者の育成方法も重要であり、困難である一環と思う。